

本校は、磐田市の南にある全校児童590人の学校です。学区に新興住宅地やマンションの建設が増え、他地区からの転入者や外国籍の児童が多く見られます。特に外国籍の児童が多く、全校児童一割ほどが外国籍の児童です。そのため、廊下には様々な国の言葉の挨拶やお知らせが掲示され、外国語が身近な環境になっています。

本校には「大松」というシンボルがあります。学校が建設された明治九年当時であった、樹齢二百数十年の黒松のことで、この学校で学んだ子供を見守ってきた存在です。この大松が子供達に「心もからだも、わた



原里中学校は、御殿場市の西部に位置し全校生徒416名の規模校です。素直で優しい生徒たちですが、自分の思いを発信することが苦手な面もあります。そこで、本校では本年度の目指す生徒像を「自分の目標に向かって、自ら発信し行動する生徒」とし、「主体性」をキーワードに、授業をはじめとした様々な教育活動に全職員で取り組んでいます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症から学校を守るために多くの活動が制限され、感染症の予防と対策に重点が置かれました。その

「勉強にも、精出して世の中に役に立つ人になれ」と無言の教えをさげ続けているとき、現在三世代目の松が学校の中庭に植樹されており、この教えも子供達の中に引き継がれています。本年度は、学校教育



目標を「夢をもち、とにもやりぬく、南っ子」とし、さわやかに挨拶すること、黙々と掃除すること、黙々と感謝と思いやりを持つことを3つの柱として行っています。

本年度の保健室では、学校教育目標の「ともやりぬく」に重点を置き、指導や情

ため、生徒の主体性や関わりを持つ活動が思うようにできませんでした。

そこで、今年度は保健委員長に「あなたはどんなことをして原里中生を元気にしていきたい？」と尋ねると、「先生、コロナ禍に慣



れてしまっていて今までやっていたことが難しくなっていると思うから、健康意識を高めていきたいです。」と答えてくれました。コロナ禍で感染症のことが、基本に立ち戻り一つの行動を丁寧に行っ

報提供を行っています。本校が続けてきた活動の一つに、保健放送があります。月に一回、健康安全の日を位置づけ、その日の朝に、養護教諭が全校児童に対して、放送による保健指導を行います。以前は、音声のみで保健指導を行って

磐田市立磐田南小学校

養護教諭 志毛 成美

ましたが、新型コロナウイルス対策として、各クラスにリモート配信ができる環境を整ったため、九月よりZOOMを使用した指導を開始しました。そのため音声のみでは伝わりにくかった指導内容を、画像や動画を見せながら指導することができるようになりました。分りやすく

健だよりに載せ、家庭にも指導内容が伝わるようにしています。保健だよりに、子供達へ指導した内容と併せて、保護者の目線で意識していただきたい内容も追加して載せるようにしています。学校と家庭の両方から、子供達にアプローチすること、より健康意識

ていくことや「当たり前」の大切さを生徒から気付かせてもらいました。この言葉を胸に、生徒が人と関わりながらやってみたい活動ができた、自分の思いを出すことができたりする保健室づくりを努めました。

させていこうという取組です。〇〇には生徒が考える様々な健康キーワードを入れて定期的に組み入れるよう工夫しました。また、昨年度の原里小中校区の健康課題として低視力者の割合が市内平均より高いことがあった

御殿場市立原里中学校

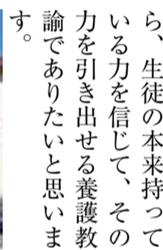
養護教諭 北條 志織

私が保健室経営の中で、来室対応と同じぐらい大事にしているのが保健委員会活動です。そして、生徒と共

ので、目を大切にした「グッドスタイル週間」を企画し、先生方と保健委員会が共同して行うことができました。コロナ禍の生活が長く引くにつれて「何となくやる気がしない」などの理由から体の不調を訴える生徒が増えて

を高めていくことを目指しています。新型コロナウイルス予防のため、多くの活動が制限されたり、見直されたりしてしま

ま。新しい形で学校と子供と家庭が、ともにやりぬく健康づくりを目指していきたいと思っています。



います。来室する理由は様々ですが、どんな訴えにも必ず生徒の思いがあります。本校の職員室にはこんなフレーズが掲示されています。「子供の心に扉がある」とすれば、その取手は内側にしかついていない。この言葉を頭の片隅に置きながら、生徒の本来持っている力を信じて、その力を引き出せる養護教諭でありたいと思

げんきな事業所

富士工業株式会社

(菊川市加茂4521)

富士工業株式会社は1938年に、大村製作所として創業し、プレスボタン、指ぬき等の樹脂製品の製造を行ってまいりました。1945年に社名を現在の「富士工業株式会社」に改め、自社のオリジナル製品として、肉池のケースに雷文模様をあしらった「ライモン肉池」や時計伸縮バンドの製造を開始しました。この時計伸縮バンドは日本一の品質と生産量を誇り「ノントラブル・フジ」として各地で称賛されました。1946年には樹脂の加工技術を利用して「富士リール」を製造。平和な時代がきたら「レジャーが盛んになり、必ず釣りブームが到来する」という確信の下、主力製品であった時計伸縮バンドの製造を完全に中止し、釣り用品製造への全面転換を行いました。釣具の製造を主軸としてから、常に釣りのマイ

ガイドを主軸に1万種を超えます。社訓として「誠意努力 禮正和楽 技徳兼備」の3つを掲げ、「常に相手のことを思いやり、陰日向なく努力をすること」「相手を敬い、挨拶やルール・マナーを守るなど小さな決事を継続して行うこと」「技術を高めるとともに品性も高めること」を大切にしています。この社訓は1946年に創業者により定められ、「創業者の考えを社員皆が理解し、彼らが次の世代にそれを伝えていける会社でなければ会社は生き残れない。」という思いから、今でも変わらず社員に引き継がれております。

1970年には静岡県菊川市郊外のうっそうと緑が茂る丘陵地156,000㎡を購入し、エコ・ファクトリーを開始しました。敷地内には山・森・池・庭、キャストインダフィールドなどが点在し、ここで働く社員は、自然の懐に包み込まれています。「R&Dセンター」は、社員の間を潤すヒーリング空間でもあり、技術と知恵を絞って研究開発に没頭する事のできる仕事場です。良い環境

をつくることで、良い人材が集まり、健全な人材が育ち、優れた製品を生み出すことができると信じています。安全衛生面では、安全衛生委員会を設置し、毎月1回委員会を開催しています。労働災害を起こさないこと

はもちろんです。社員の健康や安全を守るために必要な対策を、選任された委員にて毎月話し合いを行い、業務環境の改善に努めております。今後も社員の働く環境の最適化を推進し、社員の成長を通してよ

りよい製品生み出し、世界へ発信する事で「すべての釣りに感謝して頂ける会社」を目指し、当社製品を手にとった皆様の心を動かせるような製品をつくり続けてまいります。



菊川 R&Dセンター



R&Dセンター内「神田池」



社員 憩いスペース



「水辺感謝の日」清掃活動